

とくじのひ
徳治の碑

指定種別：市指定文化財

指 定 日：昭和 45 年 2 月 20 日

所 在 地：釜石市大只越町（石応禅寺）

制 作 年：徳治 3 (1308) 年

寸 法：高さ 153 cm 幅 57.8 cm 奥行 18 cm

銘 文：梵字（キリーク）

徳治三年戊申六月廿五日 敬白



徳治の碑は、鎌倉時代の末、徳治 3 (1308) 年に制作されたもので、昭和 2 (1927) 年に石応禅寺の住職であった瀬川午朗師が、現在の児童公園山裾から発掘しました。

中世に作られたこのような碑を板碑といい、中央には阿弥陀如来を意味する梵字「キリーク」が刻まれています。その下には「徳治三年戊申六月廿五日」「敬白」と刻まれています。

この碑の形式は一関や江刺などの岩手県内陸部南部の影響を受けていると考えられ、県内沿岸で釜石より北にはこの板碑より古い年代の碑はなく、沿岸地方での板碑文化の伝播を知るうえで重要な碑です。

